

令和6年度 令和会 行政視察 報告書

加須市の安全安心未来を上げるために、加須市の課題を解決する糸口を見つけるために行政視察を行いましたので報告します。

日時 令和6年7月30日（火）～令和6年8月1日（木）

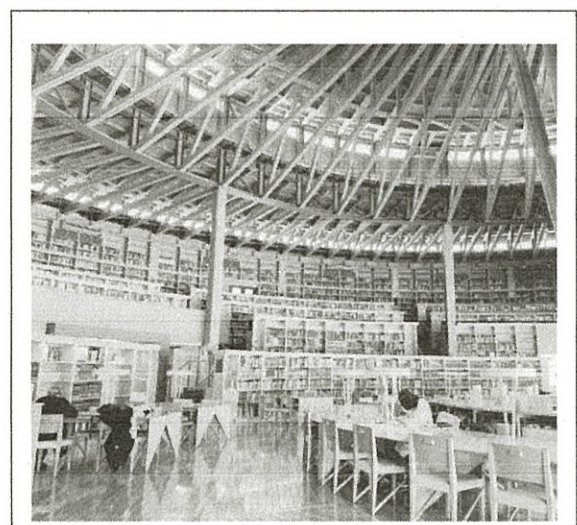
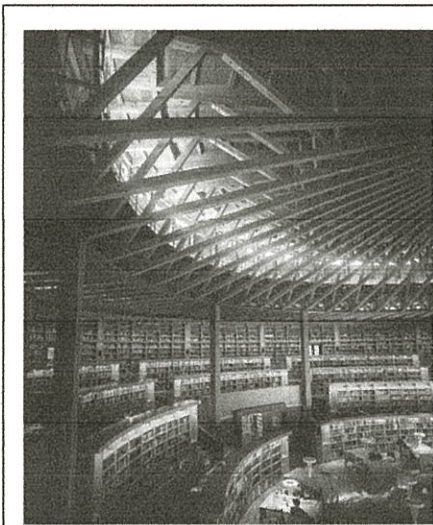
出席者 関口、原田、竹内、中島、赤坂、内田、山本、小坂 計8名

視察先1：国際教養大学 中嶋記念図書館

秋田県秋田市雄和椿川字奥椿岱 193-2

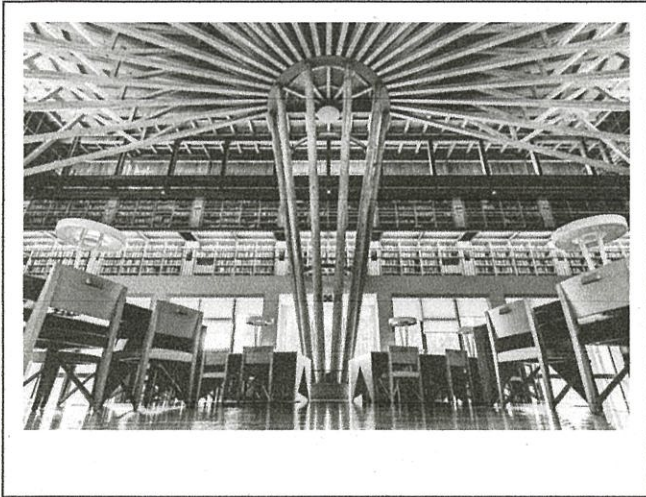
国際教養学部の偏差値は75～78。共通テスト得点率は82～95%

視察目的：加須市においては、公共施設の統廃合が喫緊の課題です。図書館においても同様に、「4か所を2か所に」とも言われています。加須駅南口開発と合わせて、市民が集える図書館であれば1か所の選択はないのかを考えるために視察を行う



秋田県にある国際教養大学には日本一美しい図書館として有名な「中嶋記念図書館」があり、学生は24時間365日利用できることから、“眠らない図書館”とも言われています。

デザインは、コンセプトから利用者を第一に考えた設計になっていた。



国際教養大学(通称:AIU)は、全授業を英語で行い、グローバル社会に貢献できる人材に育てることを目標とし、このキャンパス内にある「中嶋記念図書館」は、一般の利用者も自由に出入りできるため、秋田市民の憩いの場として親しまれていた。

60分ほどゆっくりと図書館内を散策し、英語の書籍がほとんど、しかし日本語の漫画まで取り揃えられ、加須市の新たな図書館のあべき理想の姿をみました。

視察先2：秋田県大潟村：秋田県の北西部に位置する村で、南秋田郡に属する。

秋田県南秋田郡大潟村字中央1-1 Tel 0185-45-3653

視察目的：加須市が抱える耕作放棄地問題や米の6次産業化等を先進地である大潟村の稲作事業を実体感することで、加須市の農業を改めて考える機会とする

大潟村役場にて 大潟村議会 丹野議長、伊藤農業振興課長、宮田農業振興課主任の出席をいただき、宮田主任から資料を基に大潟村の概要の説明、同時に事前質問事項について回答をいただきました。

大潟村概要

村の全域は、かつて日本で2番目の面積を誇る湖沼でもあった八郎潟を干拓して造った土地であり、干拓地として日本最大である。地方自治体としては1964年(昭和39年)10月1日に、発足した新しい村で、既存自治体の合併や分割などを伴わない新設自治体としては日本最後である。男鹿市と若美町の合併協議会に参加したこともあったが、単独立村を選択する。



大潟村の行政区域面積は中央干拓地に加え、八郎潟調整池、東部承水路、西部承水路を含み、170.05 km^2 である。

村域の中央部に北緯40度と東経140度の交点があり、日本の領土である陸地において10の倍数の緯線と経線の交点はこのみである。現在この交点には経緯度交会点標示塔が建つ。【北緯40度00分00.00秒 東経140度00分00.00秒】

もともと、湖沼（八郎潟）であった大潟村の陸地に川は1本も無く、自然に形成された山も存在しない。ほぼ楕円形を成す大潟村の外周は整備された八郎潟の残存水域で形成されており、この水域が周辺市町村との境界になっている。

大潟村と周辺市町村は直接には接しておらず、7基の橋だけで繋がっている。村の南には、今でも「八郎潟」の名で呼ばれることがある「八郎潟調整池（別名：八郎湖、八郎湖調整池）」が広がっており、その東側には東部承水路がある。東部承水路は、村の周辺部を形作りながら北へ伸張し真北で西部承水路と繋がっている。西部承水路は北から南西へと伸びて、八郎潟調整池と繋がっている。かつての八郎潟は、南の調整池と村周辺を巡る水域という形で残存している。

これとは別に、村の内側は灌漑用水路と排水路が整備されている。自然に形成された山が無い大潟村では、1990年代に村のシンボルとして築山が造成された。大潟富士がその築山である。比高は3.776mであるが海拔ゼロメートル地帯にあるため、標高0mである。

大潟村役場 主な質疑応答

No	質問事項	回答
1	国が食物の自給率を上げる必要があるといわれていますが お米については、どう感じていますか	食料自給率の低下により、米の消費減少や生産額の低迷による影響を懸念。食料受給率の引き上げにより、米の国内消費率が底上げされることを期待します。
2	耕作放棄地がわが市では、増えてきています。大潟村から見て、他市の耕作放棄地に対する思いはありますか	「耕作放棄地」については、時期の早い遅いはあるものの、大潟村も含めて日本全体の課題であると感じている。 大潟村には、「耕作放棄地」は、ありません
3	お米以外の農作物、高収益作物等の生産状況についてお伺いします	小麦、大豆、南瓜、玉ねぎ、メロン、ニンニク、徳用大豆を生産しています。
4	水稻直播の課題と実績をお伺いします	村の重粘土質ほ場で安定した収量を確保することが課題。 令和5年度実績： 実施者4名、取り組み面積8.45ha 令和6年度計画 実施者5名、取り組み面積19.60ha
5	担い手の現状をお伺いします。	40代から50代の農家が大半を占めており、現段階では、担い手は確保されている。 10年後の農業のあり方と農地利用の将来像を描く「地域計画」の作成に取り組みます。

6	「米の6次産業化」への取り組みについて、お伺いします	米粉を中心とした製粉、加工事業を立ち上げ、グルテンフリーパスタ、米粉餃子、食物アレルギー対応食、非常食をはじめとしたレトルト食品、発芽玄米など、米に関連した豊富な商品を開発しています。
---	----------------------------	--

視察先3：五城目町 教育留学について

五城目町役場：秋田県南秋田郡五城目町西磯ノ目1-1-1

TEL018-852-5372

視察目的：加須市の不登校の人数は、中学生は200人を超えてきています（令和5年度）

様々な対策はとられてきていますが、「教育留学」という新たな切り口で、対応されている先進事例を視察し、加須市の子供たちの安心安全未来につなげる

五城目町役場にて、石川議長、畑沢教育長、学校教育課 工藤課長の出席をいただき、五城目町教育委員会 工藤学校教育課長より、五城目町のエデュケーションについての現状と課題について説明あり

五城目町の概要について

五城目町は秋田県の中央部に位置する町で、秋田空港からは秋田自動車道経由で約45分。飛行機のフライト時間を考えても羽田空港から2時間程度で520年以上の歴史を誇る五城目朝市をはじめ、東北唯一の御矢師（おんやし）や、林業の発展を支えた刃物鍛冶といった伝統工芸、国内最大級の生産量をほこる木苺をはじめとした特産品、それぞれ泉質が異なる温泉、2015年にグッドデザイン賞を受賞したシェアビレッジ町村、廃校利用で全国的にも注目を集める地域活性化支援センター（BABAME BASE）など、どこを切り取っても楽しい見所満載の町です。

秋田県外の小学生・中学生を対象にした「五城目小学校」「五城目第一中学校」への教育留学では、学校での授業のほか、地域での体験活動を行い、子どもたちが町の「ひと・もの・こと」に直接ふれあい、濃厚な体験をすることで、自分の可能性を伸ばすことができます。

五城目町のエデュケーションについて

■この町でしか出来ない留学体験

五城目町には、小学校・中学校が1校ずつあります。

五城目小学校は令和2年、五城目第一中学校は平成21年に完成しました。

どちらも教室はオープンスペースとなっており、開放的な環境で多様な学習活動を行なっています。この時の学校建築コンセプトは、「越える学校」です。

また「わらしべ塾」という地域住民による体験活動がほぼ毎週末行われています。そのほか、季節に応じた農作業やものづくりなどを行うことができます。

■留学期間・宿泊先・申込時期

◎留学期間…数日～2週間程度。時期は6月10日から翌年2月7日まで

* 学校行事等の関係でお断りする場合があります。詳しくは五城目町教育委員会にお問合わせください。

◎宿泊先…2パターンを準備しています。

①町内に祖父母や親戚宅がある→祖父母や親戚宅

②保護者とともに過ごす→民間宿泊施設

◎申込時期…留学を希望する3週間前には五城目町教育委員会へお問合わせください。

◎対象…小学校1年生～中学校2年生

■留学手続きの流れ

保護者の方には以下の手続きをお願いいたします。

①五城目町教育委員会(018-852-5372)に電話等で問い合わせる。

②在籍している学校に教育留学を希望していることを連絡する。

③五城目町教育委員会から送付された書類に記入して在籍校を通して提出する。

④教育留学前日までに五城目町教育委員会で面談する。

五城目町 主な質疑応答

No	質問事項	回答
1	五城目町独自の教育留学について、教えてください	秋田県外の児童生徒に探究型授業の体験や自然体験活動等を通して五城目町教育環境の良さを体験してもらい関係人口の拡大につなげるものです。 「通常の小中学校に通う教育留学」が特徴です。
2	五城目町が教育留学を始めようとして、きっかけは、何ですか	秋田県の進める教育留学に沿って進めようと考えました
3	教育留学生は、どのような理由で来られている生徒がいらっしゃいますか	いろいろな生徒さんの理由はありますが、探究型学習に興味がある。居住地にとらわれない教育環境で学びたい。過去に体験して楽しかった。が主な理由です。
4	教育留学に参加する場合、生徒一人で参加できますか	保護者と一緒に過ごすことが基本です。
5	教育留学を卒業した生徒さんとのつながりがありますか 卒業生同士が同窓会のような定期的な集まりを持たれていますか	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和4年度から再開していますので、これからの課題です。

6	留学生の受け入れの最大人数は何人で すか。通常は、何人程度の留学生がい ますか。	受け入れ実績 令和4年度6人（小学生5人、中学生1人） 令和5年度20人 （小学生18人、中学生2人） 令和6年度19人 （小学生19人、中学生0人） * 令和6年7月24日現在 主な都道府県 青森県、宮城県、長野県、埼玉県、神奈川県、東 京都、兵庫県、大阪府、京都府、愛知県、沖縄県
7	実績と成果について教えてください	外部から多彩な児童生徒を受け入れることで 五城目町の子供たちが多様な考え方や価値観に 触れる機会を構築できた。 今住んでいる場所と違い地域の文化に触れる ことで、五城目町の子どもや住民が新たな視野 の発見や五城目町の魅力の再発見につながっ た。 地域にも波及効果があり、民間の方々も教育 留学に関心を持ち、町の課題解決につながる取 り組みにつながった。
8	今後の課題についての考えをお伺い します	課題は、以下の点と考えています。 ①放課後や休日など学校以外の時間の充実 ②町民・留学生双方のメリットのある 事業運営 ③住民と留学生のきっかけづくりを 基にした地域づくり ④県の助成が今年度までとなるため、 町単独の事業とするための予算 ⑤柔軟な児童生徒の受け入れと多様な 関係性の構築 ⑥より持続的な関係の構築

視察先4：北秋田市 あきたリフレッシュ学園（合川学童研修センター）現地視察

秋田県北秋田市鎌沢字石渕44番地 Tel0186-78-4180

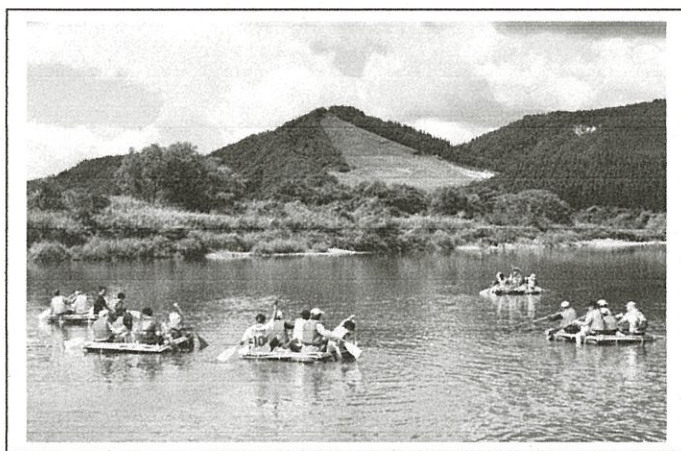
視察目的：加須市の不登校の人数は、中学生は200人を超えてきています（令和5年度）

様々な対策はとられてきていますが、「教育留学」という新たな切り口で、対応されて
いる先進事例を視察し、加須市の子供たちの安心安全未来につなげる

あきたリフレッシュ学園（合川学童研修センター）にて、北秋田市教育委員会 佐藤教育長、金澤教育次長、教育総務課 佐藤課長、あきたリフレッシュ学園 津谷社会教育主事から現地の施設、教育環境等の現地視察からはじめる。

あきたリフレッシュ学園 津谷社会教育主事より、具体的な項目を含めて、教育留学の概要の説明あり

授業と自然活動を通して北秋田の教育環境を体験



秋田型教育留学推進事業「短期チャレンジ留学Ⅰ」が8月26日（土曜日）から30日（水曜日）に合川学童研修センターなどを会場に行われ、首都圏などから参加した15人の小中学生が、北秋田市の教育留学事業などの理解を深めるとともに、体験ツアーなどを通して北秋田暮らしを満喫しています。

この事業は、北秋田市教育委員会主催、秋田県教育委員会共催で「秋田型教育留学推進事業」の一つとして行うもので、地方移住に関心のある子育て世代をターゲットに「授業体験」「自然体験」「友達づくり」などの留学体験を通して、参加者に秋田を知り、秋田を感じ、秋田を好きになってもらうことを趣旨として実施しています。

短期チャレンジ留学は、平成28年度から夏・冬の2回開催していましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。令和3、4年度は冬期間のみの開催となっています。

4泊5日の日程で行われる今回の体験ツアーは、初日となる26日（土曜日）に東京都内からの参加者が「出会い」をテーマに新幹線とバスで北秋田入りをしました。合川学童研修センターでは、オリエンテーションを経て開講式が行われ、テント設営体験に挑戦したほか、夜には花火などを楽しみました。

2日目の27日（日曜日）からは「挑戦」をテーマに、座禅体験、川遊び体験、今後予定している「いかだ下り」のいかだ作りに挑戦したほか、野外炊飯体験などの自然体験活動などを行いました。

3日目となるこの日の28日（月曜日）は、今泉地区から能代市二ツ井まで米代川の「いかだ下り」に挑戦。5つのいかだに4、5人にわかれて乗り、進路方向に苦労しながらもゴールとなる二ツ井を目指しました。また、夜には星空観察会で北秋田の夜空を観賞しました。

4日目の29日（火曜日）は、「秋田の子どもと学ぼう!」として、小学生は米内沢小学校、中学生は合川中学校において授業体験が行われるほか、この日の宿泊会場となる秋田内陸線「阿仁前田温泉駅」に隣接する「クウインス森吉」では閉講式が行われる予定で、参加者は同施設内で最後の夜となる夕食や、今回のツアーの疲れを癒す温泉体験を予定しています。

5日目となる最終日の30日（水曜日）は、「成長」をテーマに「思い出と景色を楽しもう! 内陸線の旅」として、秋田内陸線の旅をしながら解散場所となる東京都への帰路につく予定となっています。

あきたリフレッシュ学園 主な質疑応答

No	質問事項	回答
1	あきたリフレッシュ学園がなぜ創設されたのか、教えてください	あきたリフレッシュ学園は、北秋田市教育委員会が運営しています。様々な理由から学校に足が向かない子供達に個に応じた学習の機会と大自然の中での多くの体験を得る機会を提供し心身のリフレッシュやエネルギーの回復を図ることを目的として創設されました。
2	あきたリフレッシュ学園の生徒数と県内・外の割合を教えてください	生徒は、通園生（自宅から通って学習活動・体験活動を行う）と留学生（学園に宿泊しながら通園生とともに学習活動・体験活動を行う生活改善・体験生）の2パターンがあります。 令和5年度は、全て通園生で23人でした。
3	不登校の生徒が、あきたリフレッシュ学園には通えるようになるのは、どのようなケアがされているからなのでしょう	あきたリフレッシュ学園に通う最大のメリットは、「学校に通ったと同等の扱い（出席）」となることです。 保護者アンケート設問「学園の利用後、お子さんの様子に良い変化はありましたか」に「大きく変わった 52%」「少し変わった 29%」が効果と考えます。
4	様々な体験活動が用意されていますが、人気のある体験活動は、どんな活動でしょうか。	指導者の思惑と異なることもありますが、「虫取り」「魚とり」など自然と触れ合う体験に人気があるように思います。

視察先5：男鹿市「4つの保育所を統合した、認定こども園」建設現場

建設現場：秋田県男鹿市船越地区

視察目的：加須市においても、小学校22校、中学校8校 合計30校は、それぞれ生徒数の減少という、解決しなければならない喫緊の課題を抱えています。大胆に保育園4園を統合し通園バスという選択をした事例を視察することで、加須市の統廃合を考える上での道しるべとするため

新築工事現場にて、市民福祉部 子育て健康課 濱野課長、千釜主幹より（仮称）船越こども園の概要について説明あり

認定こども園「船越こども園」の概要

延床面積 2548.3 m² 完成 2025 年開園予定

老朽化や児童の減少により市内の 4 つの保育園が統合され、新たに定員 250 名の認定こども園が建設されることになった。児童によっては通園距離が遠くなりバス登園となるが、それをチャンスととらえ、今までの保育園では難しかった「小さな集団」「中くらいの集団」「大きな集団」を、園児が必要に応じて自由に行き来できるような施設を計画する。さまざまなスケールの世界が同心円状に広がり、まちやその外の大きな世界にひろがっていくような、行き止まりのないのびやかな建築とする。（2024 年開園予定）

通園バスについては、遠距離通園となる地区の通園支援の為、バス通園の保育送迎ステーション及びバス通園が困難な 3 歳未満児向けの小規模保育事業所「わかみベビー園」の開設を計画する。

男鹿市 主な質疑応答

No	質問事項	回答
1	（仮）船越こども園を開園しようとした理由を教えてください	建物の老朽化、子どもの減少です。
2	4 つの保育園が統合されてとありますが、船越が場所として選定された理由を教えてください	いろいろな候補地がありましたが、立地条件等総合的な見地から船越になりました。
3	バス登園とあります、登園に間に合うようにするためには、どのような運航になりますか	「保育送迎ステーション」を設けることで、保護者の送り迎えの利便性に配慮しました。 直接、こども園へも可能です。
4	市内にある私立の幼稚園・保育所からの反対はありませんでしたか	男鹿市では、保護者の多様なニーズにこたえるため、公立・私立がお互いを補完する体制になっています。
5	何歳児から受け入れを予定されていますか	休日保育事業（市内に住所を有し、市内の保育園に在園している児童）を計画し、一時保育事業、預かり保育も計画しています。 0 歳児から 5 歳児まで受け入れを予定しています。
6	先生の人数とその確保の状況を教えてください。	4 園の保育士を含めて、十分な保育士の確保ができています。
7	保育の無償化の対象となると考えますが、大型化されることで保護者に新たな費用が発生することはありませんか	0 歳児から 2 歳児の保育料無償化事業、保育園等給食費完全無償化事業、在宅子育て支援給付金給付事業等から新たな負担はないと考えています。

8	建設費等を教えてください	秋田県男鹿市議会は、本会議を開き、船越地区に新設する認定こども園建設工事費として17億7千万円の債務負担行為設定を盛り込んだ22年度一般会計補正予算を議決しました。(土地代約7,500万円を含む)
9	4園 統合に向けて、保護者からの反対の意見はありましたか	小学校の統廃合が先行し、現実として、子どもの人数が減っていることを見ていることから、統合に向けての反対はありませんでした。

令和6年度の行政視察からの総括

関口会長

図書館の統廃合について

加須市にとって図書館の統廃合は避けては通れない道であり決断の時期にきている考え、加須市も一か所に集約すべきだと、今回の中嶋記念図書館を視察したうえで更に感じました。

図書館には、「長時間過ごすことのできるスペース」と「ゆったりとした時間が過ぎてゆくような雰囲気」が大切であると感じました。

教育留学について

加須市にもたくさんの不登校の子どもたちが存在しています。そして、年々増加の傾向にあることも事実です。

私達の時代は、「学校は絶対に休まない・休ませない」という親や学校の方針でしたが、今は、まったくその考えは、無くなりました。しかし、「不登校からの引きこもり」に移行してしまうことが、一番の心配です。加須市には、「学習室 ピア」という施設があり、子どもたちの支えになっているとは思いますが、視察から次の方策や手立てが必要と考えさせられました。

保育所の統廃合、通園バスについて

加須市では、幼稚園の統合が先んじて始まりましたが、喫緊の課題は、小中学校の統合にあると思います。

男鹿市にあっては、南北20kmもあるという地理的条件の中、数々の工夫をしながらの統合はすごい決断だと感じました。また、小中学校給食費完全無償化など、子育て世代の費用負担を全くないようにする英断にも敬服しました。

視察から加須市においても教育に関する多くの課題について決断し、子育て世代の為に早急に進めるべきであると確信いたしました。